

## 算数科学習指導案

単元名： 重さ

「重さ」

(全時間扱い中 第4時)

授業日時 令和3年10月19日(火) 第4校時

授業学級 3年1組

授業会場 3年1組教室

授業者

指導者

## (1) 主眼(授業の手立てとねらい)

1 トンという重さが実際にどれくらいのおもさなのか調べてみたい願う子どもたちが、  
100 kgの机を持ち上げてその感覚をつかみ、より重いもののおもさを推測することを通して、  
1 トンは人間が体感できないほど重さの単位であることに気づき、  
実感をもって1 トンという重さを理解していくことができる。

## (2) 展開

	学習活動	予想される子どもの動き	・指導 ※留意点 《教材》 【評価】	時間
導入	1. 振り返り	「1000 gだよ」 「500ml ペットボトルは 500g だったから、2 本」 「ランドセル」 「パソコン」 「体重」  「トンだよ」	「1 kgは何 g だったかな」 「じゃあ、それは 500 g ペットボトル何本分の重さだったっけ」 「みんなの身近で kg で書くおもさの物って何があるかな」 「クロームブックをみんなが持ち帰る時に重い重いつて言いながら持ち帰っていたよね、でもクロームブックよりもっと重いものが身の周りにはたくさんある。じゃあ、みんなが持たない重さの物はどうだろう」	5 分
	【学習問題】自分が持てないほどの重さって何だろう。			
	【学習課題】吉澤先生の机を使って 100 kg、1000 kg を確かめてみよう。			

展開	2. 吉澤先生の机の重さから 1 トンを考える。	<p>「10 kg」  「100 kgでいいよー」  「100 kgくらいじゃないかな」  「10 kgは私の体重よりも軽いから違うと思う。」</p> <p>「1000 kg！」  「吉澤先生の机 10 個分が 1 トンの重さなのか」</p>	<p>「1 kgの 10 倍は何kgですか。」  「また、1 kgの 100 倍は何kgですか。」と聞く。  「吉澤先生の机は 10 kgか 100 kgかのどちらでしょうか」と聞く。  「じゃあ、実際に吉澤先生の机を持ち上げてみよう」で、子どもたちに吉澤先生の机を持ち上げさせる。  ※ この時持ち上げるのは、女児 2 人、男児 2 名で分けて当てる。  「100 kgの 10 倍の重さは何kg？」  「吉澤先生の机の重さ 10 個分が 1 トンの重さになるんだよ」</p>	20 分
	3. 身近で 1 トン以上あるものを調べる。	<p>「車が重そうだな」  「学校に生えている木は 1t 超えているのかな」</p> <p>「トラックは大きいものだとして 6 トンもあるんだ」  「12 メートルの電柱は大体 1 トンくらいだってわかったよ」</p>	<p>※ ワークシートの配布  「1t が人間には持てないくらいに重いということは何となくわかったかな？では、みんなの身近に 1 トン以上の物ってあるのかな」</p> <p>「みんなの身近にある①100 kgくらいの物、②1000 kg以上の物は何があるのか予想して、  ※この時にワークシートに調べたものとその重さを書かせる。</p> <p>※机間指導をする場合は、イメージができなかった子や調べる物がわからない子を中心に、一緒に考えたり助言したりする。</p> <p>※「〇〇さんはこれを予想したよって言っていたけれども、調べられた？」などその子が気になったことと調べたことを聞き出す。</p> <p>※ここまでの流れは、PowerPoint でスライドを提示しながら、授業を進める。</p>	20 分
終末	4. 振り返り	<p>「1t ってすごく重くて、1 kgの千倍もあるんだ」  「トット達は何匹いて 1t になるのかな、今度量ってみたいな」</p>	ワークシートの振り返りの欄に本時の振り返りを書かせる。	5 分

【評価（対象）】重さに対する自分の感覚を高めながら重さを正確に量ることができる。（ワークシート、発言、授業態度など）

# 算数 「重さ」 学習カード

氏名 ( )

☆ 学習課題

○身の回りで1t（1トン）いじょうの物を調べてみよう。

①100 kgくらいと予想したもの	① の重さを調べた結果。	②1000 kgくらい予想したもの	② の重さを調べた結果

○ふりかえり

[illegible]